

世界の人びとのためのJICA基金

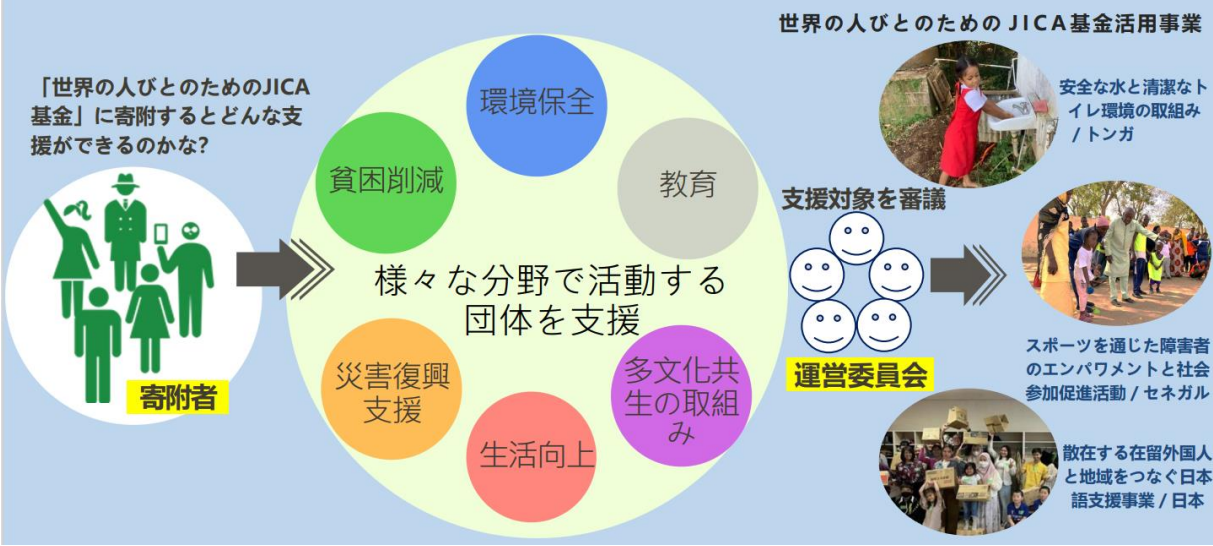
# ニュースレター 2025 後期



# 世界の人びとのためのJICA基金とは

「世界の人びとのためのJICA基金活用事業」は、市民の皆様、法人・団体の皆様の「国際協力活動を応援したい」という思いのこもった寄附金「世界の人びとのためのJICA基金」を財源とした事業です。日本のNGO等の団体が、開発途上国・地域の人びとの貧困削減や生活改善・向上に貢献する活動や、日本国内の多文化共生社会の構築促進に関わる活動を支援しており、2008年から2024年度までに242の提案事業が採択されました。

本事業を通じて、実施団体の知見と経験が蓄積されステップアップしていくことで、寄附の価値が何倍にもなって世界の人びとに届いていくことを期待し、毎年提案事業を募集しています。



各団体の詳しい活動報告について、[終了時活動報告書](#)をJICA寄附サイトの活用事業一覧に掲載していますので、ぜひご覧ください。

[https://www.jica.go.jp/activities/schemes/partner/private/kifu/09\\_list.html](https://www.jica.go.jp/activities/schemes/partner/private/kifu/09_list.html)



JICA寄附サイトからニュースレターのバックナンバーをご覧ください。

世界の人びとのためのJICA基金 | 事業について - JICA

<https://www.jica.go.jp/activities/schemes/partner/private/kifu/01.html>



## JICAの寄附金事業・JICAの取り組みについて

2008年度から開始した「世界の人びとのためのJICA基金活用事業」に加えて、2023年度より寄附メニューを拡大しました。ご関心のある活動に寄附を通じてご参加いただけます。詳しくはJICA寄附サイトをご覧ください。

[JICA寄附サイト | 事業について - JICA](#)

<https://www.jica.go.jp/activities/schemes/partner/private/kifu/index.html>



世界の人びとのためのJICA基金

開発課題の取組への寄附  
(豊かさ・人々・平和・地球)

JICA海外協力隊応援基金

多文化共生・外国人材受入  
寄附金

期間限定取り組み

JICAの事業全般への寄附

野口英世アフリカ賞基金

JICAの広報誌「JICA Magazine」（隔月刊）

世界中の開発途上国の現状や、現場で活躍する人々の姿や活動内容を紹介し、デジタル版はJICAウェブサイトからご覧いただけます。

[JICA Magazine | 広報誌 JICAマガジン](#)

<https://jicamagazine.jica.go.jp/>



企業・団体のロゴマークの掲載と寄附の公表を承認いただいた法人・団体を掲載しています。（50音順）



一般財団法人ゆうちょ財団



寄附の公表を承認いただいた法人・団体名を掲載しています。（50音順）

FVジャパン株式会社

真田KOA株式会社

サントリービバレッジソリューション株式会社

聖心インターナショナルスクール高等部

ダイドードリンコ株式会社

株式会社八十二銀行

英重機工業株式会社

株式会社ゆうちょ銀行

一般財団法人ゆうちょ財団

りそなグループ

多くの個人、法人・団体の皆様にご寄附いただきました。

皆様の温かなご支援に関係者一同心より御礼申し上げます。



JICA基金活用事業の紹介

今回のニュースレターでは2023～2024年度に採択し、2025年9月末までに終了した以下の15案件の活動をご紹介します。

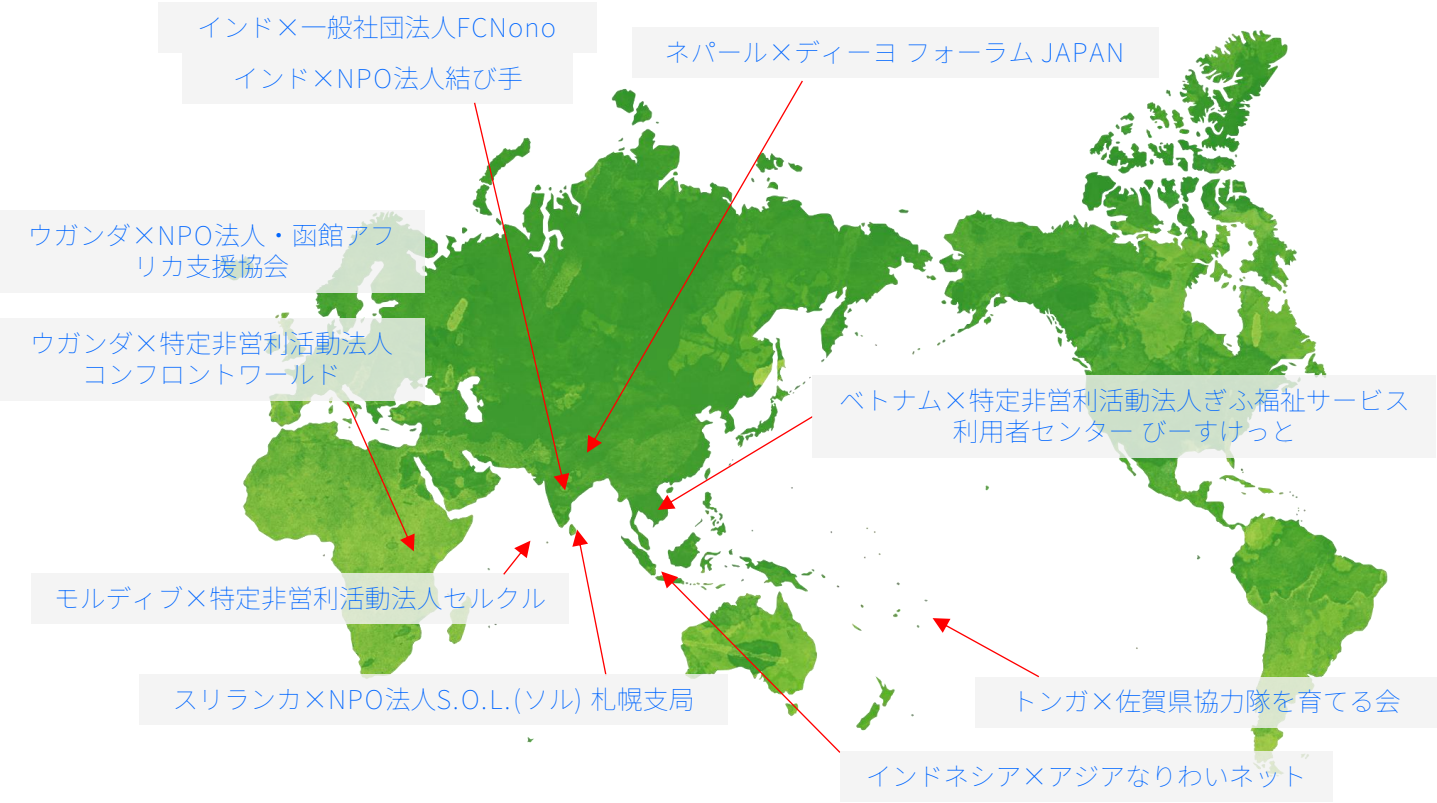
採択年度	団体名	事業名	活動地	担当JICAセンター	事業期間
2023	公益社団法人上越国際交流協会	上越市における国内外から移住した文化的言語的に多様な児童生徒および地元出身の児童生徒が共に学ぶ環境強化プロジェクト	日本	東京	2024/1/25～2025/1/24
2023	NPO法人結び手	インド国タミルナドゥ州ナットムにおける裁縫職業訓練を通じた貧困女性の収入改善・自立支援・コミュニティ支援プログラム	インド	東京	2024/1/18～2025/1/17
2023	一般社団法人FCNono	インド・ビハール州におけるサッカー指導、教育を通じた少年少女の成長支援事業	インド	中部	2023/10/16～2024/10/15
2023	特定非営利活動法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと	ベトナム・ダナン市における在宅ケアに関わる人材育成と拠点づくり	ベトナム	中部	2024/3/1～2025/2/28
2023	アジアなりわいネット	インドネシア・スンビラン諸島における漁具の技術改良による海洋プラスチック削減と水産資源の回復促進プロジェクト	インドネシア	関西	2023/10/16～2024/10/15
2023	三田市国際交流協会	兵庫県三田市における外国人防災リーダー養成を通じた防災活動推進事業	日本	関西	2023/11/9～2024/11/8
2023	特定非営利活動法人セルクル	モルディブ共和国ローカル島民家庭菜園普及活動プロジェクト～食育交流“野菜を食べる”～	モルディブ	中国	2023/11/6～2024/11/5
2023	佐賀県協力隊を育てる会	災害時にこどもたちを守る避難計画策定と防災教育の推進	トンガ	九州	2024/1/4～2024/12/27
2023	NPO法人・函館アフリカ支援協会	布ナプキンの縫製クラブ活動の樹立と生理衛生教育の推進	ウガンダ	札幌	2024/7/10～2025/7/9
2023	特定非営利活動法人 コンフロンティア	ウガンダ共和国の農村部における水・衛生環境の改善	ウガンダ	東京	2024/5/8～2025/5/7

採択年度	団体名	事業名	活動地	担当JICAセンター	事業期間
2024	NPO 法人 S.O.L.(ソル) 札幌支局	日本の虫除け文化が世界を救う AMIDO プロジェクト	スリランカ	札幌	2024/12/9～2025/6/30
2024	SHAKE★HOKKAIDO	超広域自治体における地域支援団体間の「交換留学」プロジェクトー貴重な現場の情報共有と新たな取り組み創出のためのしくみづくり	日本	札幌	2024/12/1～2025/4/30
2024	江別市国際交流推進協議会	江別のパキスタン・コミュニティを対象とする市民交流×児童の学習支援事業	日本	札幌	2024/12/1～2025/9/30
2024	一般社団法人 にほんごさぽーと北海道	やさしい日本語とまちさんぽで築く防災共生の輪	日本	帯広	2024/12/2～2025/9/30
2024	ディーヨ フォーラム JAPAN	学習に遅れがちな生徒の保護者への支援 (Parent education)	ネパール	筑波	2025/2/10～2025/7/31



ニュースレターに掲載している海外で事業を実施した団体の活動国です。

対象国×実施団体名



ニュースレターに掲載している日本国内で事業を実施した団体の活動地です。

活動地域×実施団体名



ウェブサイトやSNSアカウントを公開している実施団体はQRコードを掲載しています。JICA寄附サイトに掲載しているPDF版では団体名にリンクを貼っています。

- 案件名  
上越市における国内外から移住した文化的言語的に多様な児童生徒および  
地元出身の児童生徒が共に学ぶ環境強化プロジェクト
- 実施団体 [公益社団法人上越国際交流協会](#)
- (所在地) 新潟県上越市
- 事業期間 2024年1月～2025年1月
- 対象国・地域 新潟県上越市
- 活動報告



団体の情報  
はこちら



上：多文化共生研修会  
下：授業参観

上越市は従来外国人散在地域でしたが、近年、一部地域に外国人労働者が急増しています。地域の地域住民は、その急激な変化を受け入れるまでの態勢が追い付かない状況でしたが、顔の見える交流の機会を増やし多文化共生の地域づくりを徐々に進めています。一方近隣の学校区では、家族帯同により編入学するCLD児（注）も増加しています。彼らの学びの質の保障およびマジョリティである地元出身の児童生徒と関係を築きながら共に学ぶ環境強化を目指すべく、支援者が誰でも活用できる日本語・教科学習の授業の学習活動案の作成や学校での多文化共生推進するために関係者への研修会の開催、関係各所から成る実質的で継続的な連携体制づくりを行ないました。

（注）Culturally Linguistically Diverse Children 文化的言語的に多様な子ども

■寄附をいただいた皆様へのメッセージ

外国人労働者の保護者は「日本の教育は素晴らしい」「子どもには日本の教育を受けさせたい」と口を揃える一方、「外国人の教育は義務ではない」という学校側の管理職の認識や、限られた日本語で指導支援することの困難さ、働き方改革を迫られる学校教員にとって異文化への理解促進支援は負担が大きいなか、担当を任された教員が孤軍奮闘し、ノウハウが蓄積されず継続性がないことはCLD児の少ない外国人散在地域共通の悩みでした。本事業は、集住地域とは違って経験のない学校教員にとって新しい取り組みでしたが、地域の関係者にCLD児対応への認識がかなり深まりました。この取り組みはCLD児にとっても確実に力となり、彼らが未来の日本を支える人材に育ってくれと信じています。皆様からのご寄付が確実に貢献していることに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

- 案件名  
インド国タミルナドゥ州ナットムにおける裁縫職業訓練を通じた貧困  
女性の収入改善・自立支援・コミュニティ支援プログラム
- 実施団体 [NPO法人結び手](#)
- (所在地) 東京都港区
- 事業期間 2024年1月～2025年1月
- 対象国・地域 インド・タミルナドゥ州ナットム
- 活動報告



団体の情報  
はこちら



上：縫製が得意な訓練生が苦手な子に教えている  
下：出来上がったサンプルを確認している

インドにおける女性の地位の低さや貧困問題は非常に深刻で、最低限の人権すら保障されていない状況です。こうした女性達やその家族を支援するために設立された縫製工場（Center for Hope Garments、以下CHG）において、社会貢献活動に共感し理解を示す日本のブランド「tree & moon」と協力し、技術指導を行いました。CHGでは、国内からの注文に対してシャツ1枚あたり数十円程度の支払いであり、裁縫技術も不十分なため、安定した給与の支払いが難しい状況でした。そこで日本で販売可能な製品を作られるように、技術指導や生産方法、品質基準を現地で教育しました。女性たちは仕事を続けながらも、1日3時間の縫製トレーニングを受けることができました。プロジェクト終了時には、tree & moonからの注文を受けるだけでなく、徐々に日本の他のブランドからも縫製の注文が入るようになり、確実に成果が見られました。

■寄附をいただいた皆様へのメッセージ

私たちの活動に対する温かいご支援、心より感謝申し上げます。貧困や女性差別に苦しんでいた彼女たちも、このプロジェクトが始まって以来、毎日笑顔で職場に通うようになりました。この地域では貧困女性が性被害に遭うことが多いため、職業訓練は単に将来の貧困解決の手助けにとどまらず、安全で安心できる居場所を提供することにも大きな意味を持っています。スキルを磨くことで自信を深め、技術面だけでなく、精神的にも大きな成長を遂げた彼女たちの姿を見守ることができました。中には涙を流して感謝の気持ちを伝えてくれる方もおり、私たちもこのプロジェクトの成功を心から喜んでいます。皆様のご支援があったからこそ、ここまで進むことができました。本当にありがとうございました。



## ■案件名

インド・ビハール州におけるサッカー指導、教育を通じた少年少女の成長支援事業

## ■実施団体 [一般社団法人FC Nono](#)

(所在地) 愛知県一宮市

■事業期間 2023年10月～2024年10月

■対象国・地域 インド・ビハール州ガヤ県

## ■活動報告

インド・ビハール州の貧困地域に住む児童を対象に、教育、スポーツ、社会的成長を目的とした遠征プログラムを実施しました。

・女子児童11名は遠征先の練習で、技術に加えてリーダーシップやジェンダー平等の意識を深める場を経験しました。2名の母親が同行し「子ども達の未来の可能性」を実感し、地元地域社会で理解促進の役割を担う存在となりました。

・男子児童2名は遠征先のプログラムに参加し、リーダーシップやコーチング技術を学びました。初めての人工芝でのプレーや外国籍児童との交流を経験し、心身ともに大きな成長を遂げました。在インド日本国大使館で活動報告も行い、堂々と説明する姿は彼らの成長を象徴していました。これを機に、大使が私達の活動現場を訪問され、地域住民や活動参加者の自信につながりました。

これらの活動を通じて、参加者たちは努力を重ねることの意義を体感し地域社会への還元意識が芽生え、児童は日々の練習や活動への意欲を高め、彼らが地域の未来を切り拓く存在となる可能性を示しました。

## ■寄附をいただいた皆様へのメッセージ

この度は、私たちの活動にご支援をいただき、心より感謝申し上げます。寄附者の皆さまのお力添えのおかげで、ビハール州の子どもたちはサッカーを通じて貴重な州外遠征を経験し、技術面だけでなく精神的にも大きく成長することができました。女子児童たちは、ジェンダー平等やリーダーシップの重要性を学び、自信を持って未来に向かって歩み出す力を得ました。また、男子児童たちはリーダーシップやコーチング技術を学び、地域社会への貢献を実感する機会を得ました。これらの経験は、子どもたち一人ひとりの心に深く刻まれ、日々の活動への意欲を高める原動力となっています。

皆さまからの温かいご支援が、子どもたちの夢や目標の実現を後押ししていることに、深い感謝の気持ちでいっぱいです。今後とも、子どもたちの未来を切り拓く活動にご理解とご支援をいただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



団体の情報  
はこちら



左：女子児童Jharkhand遠征

右：鈴木大使が活動地のビハール州を訪問し、活動を見学

## ■案件名

ベトナム・ダナン市における在宅ケアに関わる人材育成と拠点づくり

## ■実施団体 [特定非営利活動法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと](#)

(所在地) 岐阜県各務原市

■事業期間 2024年3月～2025年2月

■対象国・地域 ベトナム・ダナン市全域

## ■活動報告

ベトナムではこれから急速に高齢化が進み認知症など介護を必要とする高齢者も増えていきます。「介護」の理念や役割、医療との役割分担もこれから進むと思います。私たちは「認知症の予防とケア」にテーマを置きながら、ダナン市における在宅ケアの在り方について現地の保健局、人口家族計画局と一緒に考える機会をつくりました。その成果を市内の医療関係者、地域リーダーの皆さんと共有するため「認知症セミナー」を開催しました。認知症の予防とケアは幅広い機関が様々な立場で考えなければならない問題であり、その拠点となるものが必要になります。活動を終えて現地の担当機関の既存のセンターがその役割を担っていく兆しが見えてきました。また民間老人ホームが在宅サービスを提供する決意がみられます。多くはこれから出発する段階ですが、私たちが投じた一石が広がっていくと確信しています。セミナーの様子が現地ニュースで紹介されました。

[Tăng cường kỹ năng chăm sóc và dự phòng bệnh sa sút trí tuệ - Đà Nẵng Online](#)

## ■寄附をいただいた皆様へのメッセージ

1年の短い期間でしたが、「認知症」をテーマにした初めてのセミナーをダナン市で開催できました。開催に至るまで、幹部の招へい、渡越による当局との話し合い、ダナン市内の民間老人ホーム経営者との出会いなど、多くのことを行うことができました。これらの活動を通してベトナムでこれから必要になる在宅ケアについて現地の皆さんと認識を共有することができました。ベトナムには介護保険制度はなく、家族で世話をする意識が伝統として残っています。介護施設などの整備がこれから進むと思いますが、最後まで家族と共に暮らしたいと願う高齢者の意思を尊重し家庭で介護ができる在宅ケアの環境を整えることがとても必要になっていきます。このことは「地域共生社会」を目指す我が国の目標とも共通します。両国が共に知恵を出し合って高齢社会を豊かなものにするよう、引き続き見守り支援を続けていきたいと決意を新たにしています。ご寄付誠に有難うございました。



団体の情報  
はこちら



上：認知症セミナー会場風景

下：民間老人ホーム経営者が日本の老人ホーム見学



## ■案件名

インドネシア・スンビラン諸島における漁具の技術改良による海洋プラスチック削減と水産資源の回復促進プロジェクト

## ■実施団体 [アジアなりわいネット](#)

(所在地) 京都府京都市

■事業期間 2023年10月～2024年10月

■対象国・地域 インドネシア・南スラウェシ州シンジャイ県スンビラン諸島

## ■活動報告

南スラウェシ州スンビラン諸島の環境NGOや青年団と共に2つの活動を実施しました。

①環境に配慮した海藻養殖技術を提案：ペットボトルの流出を防ぐ海藻養殖ロープの仕立て方法を提案し、導入した海藻養殖従事者の約7割がペットボトル流失率の低下を実感しました。

②伝統漁具ルンポン（浮漁礁）設置で沿岸域の漁獲量回復促進：違法なダイナマイト漁によるサンゴ礁の破壊と漁獲量の減少を受け、廃棄ペットボトルと海藻を活用した浮漁礁を設置しました。イカの産卵が確認され一定の設置効果が認められました。

どちらも耐久性に課題があり、職業高校（水産科）の生徒や教員と海の状況に応じて取り外しが可能なデザインに改良したり、環境に配慮して木製フロートを導入した新たなモデルを考案しました。活動を通じて、同地域における海藻養殖と漁業の環境負荷軽減を模索し、持続可能な生業と環境問題の解決に向けた取り組みを推進しました。さらに、地域の子供たちと一緒に考え活動することで島の未来を担う人材の育成につながっていくことを目指しています。

## ■寄附をいただいた皆様へのメッセージ

皆様の温かいご支援により、スンビラン諸島での活動も少しずつ具体的な成果を上げることができました。1年間の取り組みでは、現地視察や研修を通じて、日本も巻き込んだ新たな展開や、現地の女性グループの参画、さらに現地のステークホルダーの皆さんの意識の高まりを感じることができました。今後も活動を継続する中で、さらに多くの課題に直面すると思いますが、現地の職業高校や漁師グループ、青年団、環境NGOのチーム、そして日本からご支援くださる皆さんと共に、具体的な行動を積み重ね、試行錯誤しながらスンビラン諸島の地域課題に向けた解決策を模索していきたいと思っています。そして、まず私たち自身が学び、成長していくことで、インドネシアや日本の未来を担う人材育成の一助となることを目指します。皆様からのご支援、改めて心より感謝申し上げます。



上：海中に設置したルンポン（浮漁礁）  
下：プラスチックゴミの再利用プロジェクト

## ■案件名

兵庫県三田市における外国人防災リーダー養成を通じた防災活動推進事業

## ■実施団体 [三田市国際交流協会](#)

(所在地) 兵庫県三田市

■事業期間 2023年11月～2024年11月

■対象国・地域 兵庫県三田市

## ■活動報告

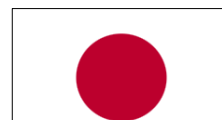
最初に防災先進地域の仙台市に視察に行き、ヒアリング内容を踏まえて、外国人防災リーダー養成講座を実施しました。災害や防災に関する講演、防災工作、災害食作り、市販の災害食評価、心肺蘇生法の体験などを行い、最後に参加者で防災イベントの企画を行いました。この企画から外国人防災リーダーグループ＜サボテンガエル＞の立ち上げに繋がりました。京都市の防災施設を見学して多くの災害模擬体験をし、＜サボテンガエル＞が企画した「多文化防災フェスタ」を実施。＜サボテンガエル＞メンバーと岡山県総社市の視察を行い、外国人防災リーダーの市職員から外国人が主体となることの大切さや意義をメンバーが学び、次のステップへ繋がりました。私達から情報を発信しても相手に届かないと意味がなく、防災や災害時の対応にはネットワークが欠かせません。外国人リーダーの存在によってネットワークが広がりました。今後、各機関や外国人コミュニティとのネットワークを広げ、災害時の体制を構築していきます。また、災害時だけではなく平常時でも、本事業での経験を活かし、外国人が主体となった事業を展開していきます。

## ■寄附をいただいた皆様へのメッセージ

従来より外国人対象の防災訓練などを行ってきた中で、外国人の防災意識を高めるためにどうすればいいかを模索していたところ、「外国人防災リーダー」という活動を知りました。経費面の問題もあり、なかなか実施に至りませんでした。この事業を活用することにより実現することができました。実施する中で、多くの団体や人とのネットワークが広がり、また、外国人の気持ちにも寄り添う活動をすすめることができ、視野が広がり、今後にもつながる課題を見つけることもできました。今後、在住外国人はますます増加し、市民生活の中でも外国人の活躍が増えてくると考えられます。しかし言語や習慣の面で戸惑っている外国人も多いため、このような情勢の中でこの事業の意義は大きく、他所にも広がってほしいと思います。



団体の情報  
はこちら



上：防災リーダー養成講座：防災イベントの企画発表  
下：防災リーダー養成講座：心肺蘇生



## ■案件名

モルディブ共和国ローカル島民家庭菜園普及活動プロジェクト～食育交流“野菜を食べる”～

## ■実施団体 特定非営利活動法人セルクル

(所在地) 広島県広島市

## ■事業期間 2023年11月～2024年11月

## ■対象国・地域 モルディブ・ナイファル島

## ■活動報告

本事業はモルディブでの野菜摂取の普及を目指し、広島修道大学ひろしま協創中学校高等学校の学生の協力を得て実施しました。モルディブから2名の研修員を日本に招き、彼らから伝統的なモルディブ料理を学びました。その味をヒントに、モルディブ人に馴染みのある食材を使った「モルディブ風お好み焼き」を日本の学生たちが考案しました。両国の学生たちは、互いの学校生活や文化を紹介し合うなど、オンラインでの交流により理解を深めました。さらに、モルディブと日本の学生112名を対象にアンケート調査を実施し、野菜摂取に関する意識調査・分析をしました。その結果、多くのモルディブの学生が「野菜は健康のために必要」と認識している一方で、野菜摂取を促進するためのレシピや教育のモデルが無いなど課題が明らかになりました。本事業を通じて、新たなアプローチが必要であることに気づかされました。この成果を今後の取り組みに活かしていきたいと考えています。

## ■寄附をいただいた皆様へのメッセージ

将来の目標である「家庭菜園の普及」に向け、第一歩を踏み出すことができました。本事業では、「食の交流」を多くの学生を巻き込む形で実現しました。その中で、日本の学生が提案した「野菜食普及のためのレシピ」がモルディブの若い世代に高い評価を得たことは、具体的な成果として挙げられます。また、学生を対象に野菜食に対する意識調査を実施した結果、野菜の調理方法や野菜の栄養価や健康効果について学ぶ教育活動の必要性、新鮮な野菜を手に入れ難いなど環境整備不足の課題が明らかになりました。これらの課題にじっくりと取り組むためには、継続した支援の必要性があると再確認しています。今後、更に発展させるために、新たな仲間を増やしながら事業展開していきたいと考えています。



上：ボランティア勉強会

下：広島修道大学ひろしま協創高等学校ワークショップ

## ■案件名

災害時に子どもたちを守る避難計画策定と防災教育の推進

## ■実施団体 佐賀県協力隊を育てる会

(所在地) 佐賀県佐賀市

## ■事業期間 2024年1月～2024年12月

## ■対象国・地域 トンガ・トンガタプ島

## ■活動報告

トンガ王国は自然災害のリスクが高く、2022年の火山噴火と津波では約8万人が被災しました。復旧活動の中で、トンガハイスクールでは避難計画と防災教育の重要性が指摘され、支援が求められました。本事業を通じて、2024年7月に避難計画策定のためのワークショップとして、教師と生徒を対象に防災講義とクロスロードゲームを行い、防災意識を高めました。その後、日本人の防災専門家と共に避難ルートの確認と避難訓練の準備を進めました。また、教育省のガイドラインを基に防災リーフレット教材を作成し、生徒に配布しました。2024年11月には避難訓練を実施し、日本の「おかしも」も取り入れ素早い避難ができました。関係政府機関も連携し訓練の意義や今後の方針を共有しました。この学校主体の避難訓練はトンガで初めての試みとなり、トンガハイスクールの年間カリキュラムに避難訓練を組み込む提案もあり、今後、より現地主導で取り組みが継続されるよう期待しています。

## ■寄附をいただいた皆様へのメッセージ

この度は、多大なるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。皆様の温かいご支援のおかげで、避難計画策定ワークショップや防災教育の実施、避難訓練が実現しました。2022年の火山噴火と津波で大きな被害を受けたトンガでは、学校での避難計画や防災意識の向上が急務となっており、皆様のご寄付がその支えとなりました。トンガハイスクールの生徒たちや教師、関係機関の皆様が一丸となり、防災意識を高め、命を守るための重要なステップを踏むことができました。皆様のご支援が、トンガの子どもたちの命を守る大きな力となり、彼らの未来を守る重要な役割を果たしています。引き続き温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。本当にありがとうございました。



上：クロスロードゲームの様子

下：避難訓練の様子



■案件名 布ナプキンの縫製クラブ活動の樹立と生理衛生教育の推進

■実施団体 [NPO法人・函館アフリカ支援協会](#)

(所在地) 北海道函館市

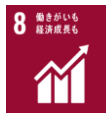
■事業期間 2024年7月～2025年7月

■対象国・地域 ウガンダ・ブケディア県 カンゴレ地域

■活動報告



団体の情報は  
こちら



1. 活動地のカパリス小学校の女子生徒の悩みである生理の貧困に対応するため、JICA基金活用事業として、1年間の活動を展開しました。  
2. 7年制の小学校制度の中で、5年生、6年生、7年生の女子生徒が足踏みミシンを使った布ナプキンを縫製出来るようになり、生理の周期表を記録することにより望まぬ妊娠を避ける知識と行動を身に付ける教育活動をシニアウーマンティーチャーの協力で行いました。この経験の蓄積は、ウガンダのこの課題を避ける上で女子をエンパワメントする活動として継続しています。  
3. 望まぬ妊娠の問題は、人口4900万人の約46%、約半数が15歳以下という実態は、子供が子供を育てているという、若年女子の人生に子育ての負担を強いる結果になっており、2024年10月の国際女性デーに合わせて行った「STOPOOOO」と題するポスター展で、一位になったポスターが早すぎる結婚、妊娠を後悔しているというポスターであった事にも現れていました。  
4. SDGsゴール8の「働きがいも経済成長も」についてはコンピューターミシンを使ったお土産品の開発を行いました。



上：ミシンを使ったナプキンの縫製技術教育  
下：生理の自己周期表を記録し望まぬ妊娠を避ける授業

### ■寄附をいただいた皆様へのメッセージ

本事業を通じて、学年（5年生、6年生、7年生）ごとに必要な機材を保管するロッカー3台を設置できました。ハサミ、糸、針、ナプキンに縫製する布や縫製した布ナプキンなどの保管が清潔にできるようになり、安心してこの事業を継続出来る環境を整えることができました。また、事業の充実の為、現地、UGGA（Uganda GIRLS Guide Association）と連携して開催したカンゴレ副郡9校の女性教員の教育ワークショップに優秀な講師と講義内容を用意することができました。現地渡航の費用をJICA基金から支援してもらえたことで、安心して渡航し活動ができ、講師への謝金や参加したシニアウーマンティーチャーへの交通費など十分な手当をすることができ、皆様の支援に感謝致します。

■案件名 ウガンダ共和国の農村部における水・衛生環境の改善

■実施団体 [特定非営利活動法人 コンフロントワールド](#)

(所在地) 東京都港区

■事業期間 2024年5月～2025年5月

■対象国・地域 ウガンダ・ブタンバラ県

■活動報告



団体の情報は  
こちら



私たちは不条理の無い世界を実現するため、困難な生活を送らざるを得ない人々に対し、現地のNGOや自治体、住民と協働して、生活のうえで欠かせない水に関する支援を実施することで、自立の後押しを行っています。  
本プロジェクトでは、ウガンダ農村部のブタンバラ県で、主に子どもや貧困層等の脆弱な住民を対象に、水衛生に関する課題解決のための活動を実施しました。  
貯水タンクの建設により約200人の児童が安全な水にアクセスし、家庭用トイレ建設により約80人が安全で衛生的なトイレを利用できるようになりました。  
また、延べ約12,000人に衛生指導を行い手洗い習慣の浸透を図る等、不条理な立場にある方々の水衛生環境の改善を図りました。



### ■寄附をいただいた皆様へのメッセージ

特定非営利活動法人コンフロントワールドは、「不条理の無い世界の実現＝生活と権利が保障され、誰もが自分で未来を決められる社会の実現」を目指す国際協力NGOです。ウガンダでは家庭用トイレの建設や安全な水の提供、タンザニアでは教育支援など、地域に根ざした活動を展開しています。メンバーは全員、プロボノ（専門性を活かした無償の活動）として、副業や兼業の形で参加しています。専門スキルと情熱を持ち寄り、「今の時代に合った支援のかたち」を模索しながら、世界の不条理に真正面から立ち向かっています。こうした活動は皆さまからの温かいご支援によって支えられています。私たちの挑戦に共に歩んでくださり、心より感謝申し上げます。



上：完成したトイレ  
下：簡易手洗い装置を使用した衛生指導



■案件名 日本の虫除け文化が世界を救うAMIDOプロジェクト  
 ■実施団体 [NPO法人S.O.L. \(ソル\) 札幌支局](#)  
 (所在地) 北海道札幌市  
 ■事業期間 2024年12月～2025年6月  
 ■対象国・地域 スリランカ・クルネーガラ県クルネーガラ市  
 ■活動報告



団体の情報は  
こちら



皆さまからのご寄付に支えられ、S.O.L.は2025年3月、スリランカ・クルネーガラ市で3回にわたる「デング熱予防教室」を開催しました。2024年よりガールズホーム（女子孤児院）退所予定の少女たちを予防教室のインストラクターとして育成し、予防教室参加者は公衆衛生官や建築士、専門学校の学生など合計約100名でした。特に日本発の虫よけ「網戸」を簡易にした「AMIDO」の効果には多くの関心が寄せられ、導入を望む声も相次ぎました。市長は条例化の意向を表明し、行政連携が大きく前進しました。活動の様子も現地大手新聞に掲載されました。皆さまのご支援により、現地で「命を守る暮らし方」が少しずつ根づき始めています。



### ■寄附をいただいた皆様へのメッセージ

このたびは、S.O.L.の活動に温かなご寄付を賜り、心より御礼申し上げます。  
 おかげ様で今回、皆さまの思いが、スリランカの人々の暮らしを変える第一歩となりました。「日本の虫よけ文化が世界を救う」という願いは、確かな手応えを持って現地で広がりつつあります。皆さまの応援があってこそその挑戦です。これからも人と人の間に「安心・安全・笑顔」を届けるS.O.L.を、引き続き見守っていただければ幸いです。

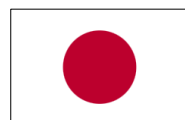


上：AMIDO作成実習  
 下：第1回デング熱予防教室

■案件名 超広域自治体における地域支援団体間の「交換留学」プロジェクト  
 一貴重な現場の情報共有と新たな取り組み創出のためのしくみづくり  
 ■実施団体 [SHAKE★HOKKAIDO](#)  
 (所在地) 北海道札幌市  
 ■事業期間 2024年12月～2025年4月  
 ■対象国・地域 北海道  
 ■活動報告



団体の情報は  
こちら



本団体は、北海道に新たに誕生しつつあるパキスタンコミュニティとインドコミュニティに焦点を当て、12名の専門家・当事者の話を通じ、エスニックコミュニティが形成された地域の現状を伝えるシンポジウムを実施しました。道内すべての地域の人々がスムーズに参加できるようシンポジウムはオンラインで行いましたが、同時に道内主要4都市（旭川市、江別市、帯広市、北見市）に対面で参加可能なサテライト会場を設けました。参加者は目標の250名を上回る254名でした（道内34市町、道外21都府県、海外3地域から参加）。さらに、地域間の交流を促すべく、新たに支援活動を始めた3名を他地域のサテライト会場に送り当該地の団体と交流してもらう「交換留学制度」を実施しました。



### ■寄附をいただいた皆様へのメッセージ

本シンポジウムは、外国人住民の伸び率が全国一である北海道で、(1)道内の共生支援者・日本語学習支援者が最新の情報を共有すること、(2)支援者間に気軽に情報交換ができるゆるやかなネットワークを構築すること、(3)地域を超えた交流から新たな取組が創出されることを目的としました。過去3回のシンポジウムで(1)、(2)を達成するための枠組みを整えることができましたが、(3)の実現には至りませんでした。本事業を通じて、(3)の達成に寄与する「交換留学制度」を実現することができました。また、登壇した道内2地域の支援者・当事者間の交流が進み、地域を超えた取り組みが生まれました。JICA基金のおかげで、シンポジウムを、より目的の達成に適した形に発展させることができました。



上：江別サテライト会場の様子  
 下：北見カーリング交流会の様子

■案件名 江別のパキスタン・コミュニティを対象とする  
市民交流×児童の学習支援事業

■実施団体 [江別市国際交流推進協議会](#)  
(所在地) 北海道江別市

■事業期間 2024年12月～2025年9月

■対象国・地域 北海道江別市

#### ■活動報告

本事業では、SHAKE★HOKKAIDOと「えべつ多文化こども勉強会」の2団体と連携し、市民交流、女性向け日本語支援、児童学習支援を実施しました。アンモナイトアカデミーは常に定員超の申込があり、市民の関心の高まりを示しました。さらに、これを契機に当別町での交流や諸学生、高校・大学生による自主的な発信が生まれました。また、コミュニティの配偶者、特に非識字女性に向けたオンライン教材の作成を開始し、浦河町で試験的に教室を開催しました。「えべつ多文化こども勉強会」では参加児童が増加し、ボランティア登録制を導入しました。児童への学習支援を通じ、母親の日本語学習参加や学校・行政との連携も進展しました。以上の取り組みにより、江別市のパキスタン・コミュニティに対する理解と支援の基盤が着実に広がりしました。

#### ■寄附をいただいた皆様へのメッセージ

本事業により、SHAKE★HOKKAIDOは活動の幅を広げ、当別町や浦河町など他自治体と連携して交流事業や日本語学習支援を実施できるようになりました。活動を通じ、多様な市民が団体に加わり、地域に新たなつながりが生まれたことも大きな成果でした。「えべつ多文化こども勉強会」は、立ち上げ期に活動を安定させることができました。今回の事業で築いた基盤を生かし、市民交流、女性への日本語支援、子どもたちへの学習支援を継続しながら、誰もが安心して暮らし、共に学べる地域づくりを進めていきたいと思っています。



団体の情報は  
こちら



上：2025年8月10日アンモナイトアカデミー  
下：クリケット練習会の様子

■案件名 やさしい日本語とまちさんぽで築く防災共生の輪

■実施団体 [一般社団法人にほんごさぽーと北海道](#)  
(所在地) 北海道河東郡

■事業期間 2024年12月～2025年9月

■対象国・地域 北海道（帯広市、音更町、美幌町、千歳市）

#### ■活動報告

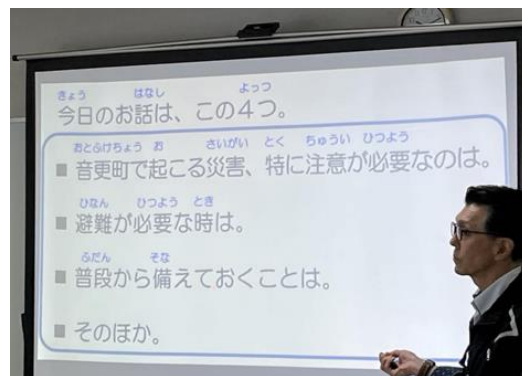
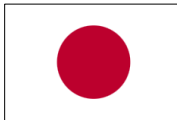
本事業では、外国人住民と日本人住民が共に学び、地域での防災力を高めることを目指しました。北海道内の3市町で各2回のワークショップを開催し、計64名が参加しました。やさしい日本語や母語で防災に必要な情報を整理し、まちを歩きながら危険箇所や避難場所を確認しました。この活動を通して、参加者は防災の知識を深めただけでなく、互いの文化や考え方を尊重する機会となりました。特に、多言語での交流や「まちさんぽ」でのミッションを通して、参加者同士のつながりが深まり、地域に暮らす外国人の方が安心して生活できるコミュニティを築く第一歩となりました。JICA基金を活用した本事業は、自治体や地域住民の協力のもと実施することができ、この連携により、今後の活動につながる貴重な知見を得ることができました。地域とのつながりをさらに強化し、国籍や言語に関わらず、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現に向け、今後も取り組みを続けていきます。

#### ■寄附をいただいた皆様へのメッセージ

本事業では「やさしい日本語とまちさんぽで築く防災共生の輪」をテーマに実施し、外国人住民と日本人住民が共に地域の防災について学び、つながりを深める貴重な機会を提供することができました。この活動では、まちを歩きながら危険な場所や避難経路を確認し、災害時に役立つ情報を「やさしい日本語」や母語で共有するワークショップを行いました。参加者からは、「地震がたくさんあって不安だったが、知識がついて安心した」「普段話す機会がない外国の方と交流できて嬉しかった」といった声が寄せられました。この活動は、皆さまのご支援のおかげで、地域に暮らす外国人の方が安心して生活できるコミュニティを築く第一歩を踏み出せたと感じています。今後も、国籍や言語に関わらず、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現に向け、皆さまのご期待に応えられるよう活動を続けてまいります。引き続き、温かいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



団体の情報は  
こちら



上：やさしい日本語や母語でまちさんぽコースを話し合う参加者  
下：やさしい日本語での音更町危機対策課推進員の防災講話



■案件名 学習に遅れがちな生徒の保護者への支援 (Parent education)

■実施団体 [ディーヨフォーラム JAPAN](#)

(所在地) 栃木県芳賀郡

■事業期間 2025年2月～2025年7月

■対象国・地域 ネパール・シンドウパルチョーク郡  
スンコシNo.1及び一部 No.2



団体の情報は  
こちら



## ■活動報告

村の学校では、学習に遅れがちな生徒や欠席の多い生徒への対応に困っていました。その改善のため「保護者の教育への関心を高める」「子供の家庭学習の定着を図る」ことを目標として事業が動き出しました。具体的には、訪問指導者の研修会、保護者の講習会、指導者による家庭訪問、日記の宿題とそのチェック等があげられます。月2回程度の家庭訪問と子ども本人と対話しながらの日記チェックにより、子供たちの学習環境の背景が見え、生徒理解が進み、保護者との連携もしやすくなりました。それは、現地指導者のやりがいも高めました。事業後のアンケート結果から、保護者の教育への理解、生徒の家庭学習の定着が高まったことが確認できました。

## ■寄附をいただいた皆様へのメッセージ

本事業責任者は、近年、現地の教育関係者から「学習に遅れがちな生徒への対応が難しい」との課題を持ち掛けられていました。その生徒たちに共通していることとして、「貧困や身分制度による格差」「子供の家庭学習習慣の未定着」「親の教育への関心の低さ」等があげられました。JICA基金活用事業に採択されたことで、活動範囲を学校から家庭・地域に広げ対応することができました。本事業を通して、生徒・保護者共に改善が見られました。

本事業への支援は、人づくりという面で現地に残る財産となると思います。寄付してくださった皆様に心より感謝申し上げます。



上：保護者の講習会 子供と共に集まる  
下：家庭訪問指導 学習以外の課題も見えてくる



# 2024年度JICA基金活用事業 採択団体

2024年度は、皆様のご支援を受けて44件の案件が採択されました。多くの個人や法人・団体の皆様の寄付により、途上国における貧困削減や生活改善、教育の機会の提供等の活動に加え、日本国内の多文化共生社会の構築促進に貢献する活動が行われています。

団体名	案件名	実施国	担当 JICAセンター	事業期間
NPO 法人 S.O.L.(ソル) 札幌支局	日本の虫除け文化が世界を救う AMIDO プロジェクト	スリランカ	北海道 (札幌)	2024/12/9～ 2025/6/30
SHAKE★HOKKAIDO	超広域自治体における地域支援団体間の「交換留学」プロジェクトー貴重な現場の情報共有と新たな取り組み創出のためのしくみづくり	日本国内	北海道 (札幌)	2024/12/1～ 2025/4/30
江別市国際交流推進協議会	江別のパキスタン・コミュニティを対象とする市民交流×児童の学習支援事業	日本国内	北海道 (札幌)	2024/12/1～ 2025/9/30
一般社団法人 にほんごさぽーと北海道	やさしい日本語とまちさんぽで築く防災共生の輪	日本国内	北海道 (帯広)	2024/12/2～ 2025/9/30
北見 YMCA いろはの会	日本語能力試験（JLPT）受験集中コース	日本国内	北海道 (札幌)	2025/2/25～ 2025/12/31
一般社団法人みつやブリッジ	ザンビアと丸森町における農業を通じた win-win 地域おこし	ザンビア	東北	2025/2/20～ 2026/2/19
とちぎに夜間中学をつくり育てる会	『中学教科単語帳』（日本語⇒シンハラ語）の発行と多様な児童生徒が共に学びあう学習環境づくりの促進	日本国内	筑波	2024/11/15～ 2025/11/14
認定特定非営利活動法人あおぞら	ラオスにおける安全安心な出産のための医療人材育成プロジェクト	ラオス	筑波	2024/12/1～ 2025/11/30
ディーヨ フォーラム JAPAN	学習に遅れがちな生徒の保護者への支援（Parent education）	ネパール	筑波	2025/2/10～ 2025/7/31
特定非営利活動法人サラダボール	パラグアイ自立生活エンパワメント支援事業	パラグアイ	筑波	2025/1/20～ 2026/1/19
特定非営利活動法人 NGO クワトロ	プーオイ村の小規模コーヒー農園を対象にした技術指導による所得向上支援事業	ラオス	東京	2025/5/22～ 2026/5/21
特定非営利活動法人共に暮らす	外国人児童と接する教育関係者に対するセミナーの実施	日本国内	東京	2025/1/23～ 2025/12/22
NPO法人 YOU&MEファミリー	バングラデシュ国ガジプールの学校（中等教育）における貧困層生徒職業訓練と、それを持続可能な運営にするための収益化事業ー2 年次	バングラデシュ	東京	2024/11/15～ 2025/11/14
一般社団法人新興事業創出機構	ラオスで日本の IT パスポート試験をビジネス常識や IT リテラシーの測定に活用してビジネス人材のスキル底上げにつなげる取り組み	ラオス	東京	2024/11/5～ 2025/11/4
特定非営利活動法人 新潟国際ボランティアセンター	ベトナムの孤児院における学力及びソーシャルスキル向上支援	ベトナム	東京	2025/1/6～ 2026/1/5
特定非営利活動法人 Alazi Dream Project	シエラレオネ共和国ボー県・カイラフン県・プジェフン県における中高生性教育プログラム	シエラレオネ	東京	2025/1/6～ 2026/1/5
特定非営利活動法人 AfriMedico	タンザニア 置き薬設置村・世帯拡大事業	タンザニア	東京	2025/5/1～ 2026/4/30
特定非営利活動法人 ヒマラヤの星たち	学校における児童の眼の健康を守る事業	ネパール	横浜	2025/1/15～ 2025/2/17
国際 NGO ViVID	ガーナ共和国セイチェレ村「村おこし」事業2024 ～ジェンダーからのアプローチ～	ガーナ	横浜	2024/12/2～ 2025/12/1
特定非営利活動法人 N A R O M A N	幼児の心身の生育に関する養成プログラムの実施-低栄養児とその保護者対象の栄養プログラムの補完とし-	東ティモール	横浜	2025/4/21～ 2026/4/20
特定非営利活動法人 RCB 大口夢	横浜市大口通商店街における、外国にゆかりのある子どもの居場所支援と多文化共生コミュニティ構築事業	日本国内	横浜	2025/8/15～ 2026/1/31

団体名	案件名	実施国	担当 JICAセンター	事業期間
ブルードット	フィリピン 南レイテ州の離島・リマサワ島の経済的脆弱層で組成した受益者グループにおける貯蓄貸付の仕組み導入支援	フィリピン	北陸	2025/7/28～ 2026/7/27
一般社団法人 日本語まなびサポート北陸	石川県全域に届けたい！外国につながる児童生徒への学習支援	日本国内	北陸	2025/4/1～ 2026/2/20
GRACE U.A.	みらいインベスト～外国にルーツを持つ生徒のための進路サポート～	日本国内	中部	2025/5/16～ 2026/5/15
NPO 法人幸縁	未来のコミュニティリーダー育成を目指したグアテマラ現地学習塾定着プロジェクト	グアテマラ	中部	2024/11/1～ 2025/10/31
Projeto Sementinha	在日ブラジル人コミュニティにおける継承語教育やアイデンティティを育む支援および移民劇を通じた多文化理解促進事業	日本国内	中部	2024/12/2～ 2025/11/28
一般社団法人SETTEN	定住外国人向けキャリア形成と生活ガイドブック	日本国内	中部	2025/2/3～ 2025/10/31
一般社団法人磐田国際交流協会	多文化親子ひろば～つながろう！ひろげよう！こどもの輪～	日本国内	中部	2024/11/18～ 2025/3/14
特定非営利活動法人 みらい	日本の小中学校、高校に在籍する外国にルーツをもつ児童生徒への日本語指導と心の居場所づくり	日本国内	中部	2025/4/1～ 2026/2/27
アジアなりわいネット	インドネシア・スンビラン諸島における海洋プラスチック削減プロジェクト～環境に配慮した木製フロートの可能性～	インドネシア	関西	2025/5/12～ 2026/5/11
移民支援団体 immi lab	移民ルーツの若者をエンパワメントするプロジェクトポインタのメンター拡充事業	日本国内	関西	2025/3/7～ 2025/12/15
一般社団法人モザンビークの新しい教育を支援する会	モザンビーク共和国マプトにおける ABA(応用行動分析)研修事業	モザンビーク	関西	2025/2/21～ 2025/12/31
国際看護師会	地域で支える外国人の健康問題	日本国内	関西	2025/6/23～ 2026/6/22
One EARTH Project Hiroshima	コスタリカにおける、地域産品・技術を生かしたお土産品開発による女性の収入向上プログラム	コスタリカ	中国	2025/2/20～ 2026/2/19
グール	モンゴルの子どもの栄養改善・食育プロジェクト～地域での食育活動推進～	モンゴル	中国	2025/5/9～ 2025/12/31
一般社団法人わかいふあーむ	牛糞の清掃と牛糞堆肥の活用を通じたモデル農家創造プロジェクト	インドネシア	中国	2024/12/25～ 2025/12/24
Orphan Affairs Unit (O.A.U.) Japan	マラウイ農村地域で住民運営による Sky Kids Academy 幼稚園の教員能力向上及び組織強化	マラウイ/ 日本国内	四国	2024/12/20～ 2025/11/30
特定非営利活動法人しまなみアートファーム	ジンバブエにおける女性音楽教師育成を通じた女性の地位・収入向上を目指すプロジェクト	ジンバブエ	四国	2024/11/1～ 2025/10/31
AfricAsiA (アフリカジア)	マラウイ:HIV 陽性者女性で製造販売する石鹸品質向上の研修と収益拡大プロジェクト	マラウイ	九州	2024/12/16～ 2025/12/15
特定非営利活動法人 SEWA	来日直後の日本語がおぼつかない在日ネパール人児童に対する効果的な学習支援体制構築プロジェクト (フェーズ2)	日本国内	九州	2024/12/2～ 2025/12/1
SOWER	インドネシアの都市カンポンにおける魅力再発見と防災意識向上プロジェクト	インドネシア	九州	2024/12/27～ 2025/12/26
佐賀県協力隊を育てる会	トンガの学校における防災教育と避難計画の策定を通じた持続可能な防災力向上事業	トンガ	九州	2025/6/2～ 2026/5/29
浦添市国際交流協会	日本語教室が繋ぐ地域と外国人	日本国内	沖縄	2024/11/13～ 2025/10/31
おきなわ日本語教室プロジェクト	島嶼県沖縄における地域日本語教室をハブとした多文化共生社会づくり～今ある情報と人を繋げるネットワークの構築から～	日本国内	沖縄	2024/12/5～ 2025/11/30



世界の人びとのためのJICA基金 ニュースレター2025後期  
発行：独立行政法人国際協力機構 国内事業部市民参加推進課  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1 竹橋合同ビル  
TEL：0800-100-5931（寄附専用ダイヤル）

<https://www.jica.go.jp/activities/schemes/partner/private/kifu/01.html>